

豊橋技術科学大学長 殿

平成 17年 2月 28日

審査委員長 大貝 彰



## 論文審査及び最終試験の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。

学位申請者	Le Roux, Pieter Christiaan	学籍番号	005044
申請学位	博士(工学)	専攻名	環境・生命工学専攻
論文題目	APPLICATION OF A MODEL OF WORK STYLE TYPOLOGY ON ASPECTS OF AUTONOMY AND DIVERSITY IN WORK PERFORMANCE IN OPEN PLAN OFFICES A Study on Predictive Facility Management オープンプランオフィスでのワークパフォーマンスの自主性と多様性に対するワークスタイル タイポロジー・モデルの応用 予測的ファシリティマネジメントに関する研究		
公開審査会の日	平成 17年 2月 25日		
論文審査の期間	平成17年1月26日～平成17年2月28日	論文審査の結果	合格
最終試験の日	平成 17年 2月 25日	最終試験の結果	合格
論文内容の要旨	<p>オープンプランオフィスは国内で最も多いオフィス形式であり、その活用は重要課題である。本研究はオープンプランオフィスのファシリティマネジメントに関して、ワークスタイルとオフィス環境との対応関係を対象とする。第1章は、研究の背景と目的を述べ、第2章では、国内で代表的なオフィス性能評価法であるニューオフィス推進協会NOPAミニマム規格に注目し、事例評価研究を行い、北米のASTM規格など海外の評価法との比較分析から、性能評価手法の枠組みを明示し、空間的快適性の重要性を示した。第3章では、空間的快適性に注目し、フリーアドレス方式など新しいオフィス事例を対象として、ワーカーの動きやコミュニケーションのパターンをマッピング調査し、ワークパフォーマンスの自主性と多様性の観点からワークスタイルのタイポロジー分析を行い、ワークスタイル分類の意義を示した。ここでは指標として、ワーカーの在席率や在室率、コミュニケーションの場所、動線の範囲などを使用し、第4章は、より一般的なオフィスを対象とし、ワークスタイル分類別のワーカー数を算出し、必要な物的環境との対応を示して、ワークプレースづくりにおける新しい方法論を提示した。第5章では、将来のワークスタイルの変化と多様化について方向性の把握に利用できるワークスタイル発展モデルを提起し、一連の方法論を予測的ファシリティマネジメント・モデルとして提言を行っている。第6章では、本研究を総括している。</p>		
審査結果の要旨	<p>近年、文部科学省文教施設部では「施設マネジメント」という用語で「ファシリティマネジメント」の普及・発展の必要性を提唱しており、本論文はこうした要請に沿ったものである。論文が対象とするオープンプランオフィスは、自由度が非常に高いオフィス形式で国内ではよく使用されているが、管理運営が課題となるため、ワーカーのパフォーマンスを測定しワークプレース環境の品質を評価する方法論の確立が、オープンプランオフィスにおけるファシリティマネジメントの重要課題である。本研究では、ワークプレース性能評価手法について分析するため、NOPAミニマム規格を中心に国際的な比較研究を行い、評価方法に必要な枠組みを明示して、空間的快適性の重要性を指摘した。また、ワーカーの動きやコミュニケーションの実態調査に基づくタイポロジー分析を通して、具体的なワークプレースづくりに有益なワークスタイル分類法を提案している。さらに、評価から計画へと展開する予測的モデルは、先進的なワークプレースづくりの方法論として独創的なものである。以上、本研究は、オープンプランオフィスにおけるワークパフォーマンスの自主性と多様性について適時的な知見を提示し、ワークスタイル分類法について独自の提案を示すことからワークプレースづくりに有益な方法論を提示し、ファシリティマネジメント研究分野での意義ある貢献をなしている。よって、本論文は博士(工学)の学位論文に相当するものと判定した。</p>		
審査委員	大貝 彰	渡邊 昭彦	谷口 元
	加藤 彰一		

(注) 論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。